上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく　すこやかな　上矢作の子

大船山

第　１５　号
令和５ 年 １１ 月 ２８ 日

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/

自信づくりのタネは身の回りにたくさんあります

校長　　細江　幸次

先日、休日に開催された火災予防ポスター展表彰式に出席してきました。これは市内小中学校から５１６点の応募作品が集まり、その中から特別賞として選ばれた５９点の作品に対して行われたものです。

勤務校が関係する対外的な表彰式については、出席可能なものについては極力足を運ぶようにしていますが、今回はその中に上矢作っ子の作品が５点も選ばれているので、自分の作品が表彰されるわけでもないのに、ちょっと誇らしい気持ちでその会場にいました。入賞した上矢作っ子は全員表彰式に参加して、手渡しで賞状や副賞をいただくことができました。もちろん、子どもたちだけでその会場に行くことは難しいので、当然お家の方も休日中の予定を割いて一緒に表彰式に参加いただき、ありがたく感じました。当日は入賞した５９人全員が出席していたわけではなく、欠席もやや目立ちました。今の小中学生は私が思っている以上に忙しいようで、休みとなると結構予定が入っているようです。お家の方も休みの日だからといって時間が空いているとは限りません。そんな中での全員出席だったので、中には都合をつけて参加していた上矢作っ子もいたのだろうと思います。

火災予防ポスター展表彰式にて

果たしてそこまで都合をつけて出席する必要があるのかと思われる方がいるかもしれません。しかし、私は自分がやったことに対して学校外の場で、大勢の人の前で、他校の児童・生徒に混じって表彰される(認められる)体験は、そうそうあることではないので、都合がつく限り参加してほしいと考えています。表彰会場には自分がつくりあげた作品も掲示してありました。自分の知らないたくさんの人たちが自分の作品を眺めている光景をぜひ目の当たりにしてほしいと思います。そうすることで、それまでなかなかもてなかった自信が少しずつ大きくなっていくことが往々にしてあります。「よし、次も何か頑張るぞ」と、自分自身の活力を生み出してくれることもよくあることです。このことは言葉で説明するよりも、はるかにわかりやすく実感として得られることだと思います。こういった場を逃さず、都合をつけて参加できるようにしていただいたお家の方のご協力は非常に大きいと考えます。

自信というものはある日突然自分の中で生まれるものではなく、「めあて」･･･自分が納得いくまで作品に取り組む→「努力」･･･自分ができ得る力で、最後まで粘り強くやりきる→「自信」･･･自分の目標を達成する・周りの人たちに認めてもらう、といったサイクルで少しずつ育まれていくものです。今回は表彰式のような少し特殊な場を例に挙げさせていただきましたが、実はこの「めあて→努力→自信」のサイクルは私たちの周りにたくさんあります。もし、自分で思いつかなければ、学校で設定している当面の自信づくりの場は冬休みに取り組む書き初め(全校)と１月に実施する漢字検定(希望者)があります。是非、自分なりのめあてをつくって、取り組んでみてください。